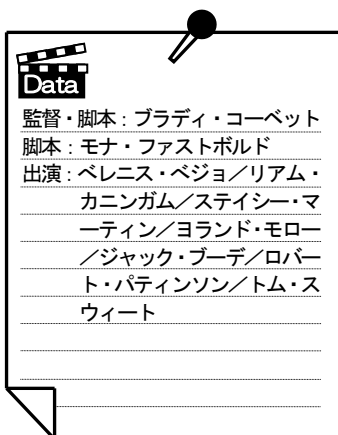




■■■ショートコメント■■■

◆本作の邦題は『シークレット・オブ・モンスター』だが、原題は『THE CHILD HOOD OF A LEADER』。この原題は、フランスの実存主義哲学者で作家のジャン＝ポール・サルトルの短編小説『一指導者の幼年時代』（新潮文庫『水入らず』所収）から借りたタイトルらしい。しかして、邦題の「モンスター」や原題の「リーダー」とは一体ダレ？

◆1914年に始まった第一次世界大戦は1918年11月11日に終わったが、その「戦後処理」をめぐる、イギリスのロイド・ジョージ首相、フランスのクレマンソー首相、日本の西園寺公望元首相、アメリカのウィルソン大統領、イタリアのオルランド首相など 連合国主要5カ国をはじめとした首脳がパリに集まった「パリ講和会議」は1919年1月18日から始まり、紛糾の挙句にドイツとの講和条約である「ヴェルサイユ条約」が1919年6月28日に締結された。

ヴェルサイユ条約における天文学的な金額の賠償金や領土の割譲など、ドイツにとって過酷な条件がその後のヒトラーを生んだことは有名な話だから、本作がそんなパリ講和会議から始まることを考えれば、「モンスター」や「リーダー」とはヒトラーのこと・・・？ 私のはてっきりそう早とちりして本作に興味を持ったが、いやいや、さにあらず・・・。

◆『羊たちの沈黙』（91年）のジョナサン・デミ監督が本作を高く評価したこともあって、本作は2015年の第72回ベネチア国際映画祭オリゾンティ部門で監督賞と初長編賞作品賞の2冠に輝いたが、ハッキリ言って私にはアメリカの国務次官補（リウム・カニンガム）の一人息子であるプレスコット（トム・スウィート）の幼少時代のわがままぶりを描く（だけの）本作がなぜそんなにすばらしいのかよくわからない。彼の妻（ベレニス・ベジョ）はドイツ人の父を持ち、4カ国語を話せるから、その妻をパリ講和会議に同行させたのはわかるが、そもそもなぜ幼少の一人息子をパリまで同行させたの？ プレスコットの

教育は？友人たちとの交流は？

◆かつて1960年代に『美しい十代』を歌って歌手・三田明がデビューした時、彼は「最も美しい日本人」と称された。私が小学生の頃に両親に連れられて観た東映のチャンバラ映画で、美空ひばりと共演していた若かりし頃の中村錦之助も美男子そのものだった。

他方、映画に見る「美少年」は何と言っても『ベニスに死す』（71年）に登場した14歳のタジオ（ビョルン・アンドレセン）だが、本作でプレスコット役に抜擢され、劇中でも女の子にまちがえられてキレてしまう撮影当時9歳のトム・スウィートの美少年ぶりもすごい。『ベニスに死す』の老紳士のようにひょっとしてあなたにそんな「趣味」があれば本作は相当のおすすめだが、そうでなければ、ほぼ全編にわたってプレスコットのキレぶりばかり見せられても……。

◆本作ではプレスコットと父親との対話不足（対話ゼロ？）はもちろんだが、プレスコットと母親との対話不足が目立つ。それを補うのがフランス語の家庭教師アデレイド（アダ）（ステイシー・マーティン）だが、プレスコットとアダの関係は微妙だ。逆に、プレスコットのわがままを受け入れてしまい、結局クビ宣告をされてしまうのが太っちょメイドのモナ（ヨランド・モロー）だ。

本作前半は、プレスコットとアダとのフランス語の学習風景やプレスコットと両親との食事風景を契機として発生するプレスコットのキレぶりを見せていくが、プレスコットのモンスター性はそんなに特殊なの……？近時のニュースを見たり聞いたりしていると、わがままな現代っ子のこの程度の逆ギレぶりはどこにでもあるのでは……？

◆本作のパンフレットにある高橋諭治氏（映画ライター）の「謎めいた美少年の内なる闇が渦巻く異形の映像世界」には、「しかし、いくら謎解きのパズルを完成させようと試みても、納得できる答えに到達するのは極めて難しい。思春期の入り口に差しかかった少年の反抗と暴発を描いた3つの章と、プレスコットがヒトラーを連想させる独裁者へと変貌を遂げる最終章『新しい時代』とのギャップがあまりにも大きいからだ。」と書き、更に「海外での本作に対する評価が極端なくらい賛否まっぴらに割れた理由もおそらくそこにある。」と書いている。『羊たちの沈黙』のジョナサン・デミ監督は本作を絶賛したが、本作への否定的な評価も目立つということだ。ちなみに「映画批評ブログ、ただ文句が言いたくて」というブログでは、本作を100点満点の10点とし、ボロクソに評価している。私はどちらかというこのブログに賛成……。

◆天使のような美少年が独裁者に変貌！それが本作のテーマだ。そして、本作の最終章「新しい時代」では何とも重々しい音楽が鳴り響く中、あの美少年からひげをたくわえたたくましい男＝独裁者に変貌した男が群衆の歓呼の中に登場してくるが、これは一体ダレ？

誰が見てもそれはヒトラーを彷彿させるものだが、アメリカの国務次官補の息子プレスコットがヒトラーに変貌するはずはないから、これはあくまでイメージにすぎないことは

明らか。つまり美少年プレスコットがなぜ独裁者に変貌したのかは観客1人1人の想像に委ねられているわけだ。

しかし、そんな理解を委ねられても、さて私はどうすればいいの？私には本作の製作意図が全く理解できないし、したがって本作の良さも全く理解できなかったが・・・。

2016（平成28）年12月9日記